



### 【総合評価】

評価できる取り組みとして、農を学ぶ講座を通じて、陽だまり館へ出荷する新規参入者が現れるなど農業公園の役割を理解し、農業の担い手づくりに貢献したこと、カワバタモロコの保全活動、ニホンミツバチの飼育、戸田川さんぼの開始など新たな取り組みに着手したこと、除草管理において水準表以上の回数と様々な工夫を行いながら良好な状態の維持に努めたことが挙げられる。アンケートの結果を反映し要望の高い講座を増やすなど、利用者のニーズを把握して集客につなげたこと、コロナ禍の中で身近な憩いの施設として見直されている印象があり、そのような施設づくりを進めてきたことも評価できる。また、多様な主体との連携により多種多様な講習会や展示会を実施したこと、特にとだがわこどもランドとの連携は公園の運営という面から評価できる。レストハウスの黒字を含め、収益事業の売り上げがコロナ前と比較して112%となったことも評価できる。

今後、参加者の少ない講習会については、新たな企画への入れ替えを積極的に行うなど、さらなる緑の啓発と公園の利用促進を図っていただきたい。また、公園の利用促進に向けてSNS等の活用とフォロワーの増加に一層取り組んでいただきたい。洋式トイレの温便座導入をこれからも一層進めていただきたい。駐車場に防犯カメラを設置したことは評価できるので、安全な公園になるよう一層取り組んでいただきたい。収入を増やす等人件費の上昇に対処していただきたい。

# 施設の現状

## 名古屋市農業文化園・戸田川緑地

施設の現状	施設概要							
	都市農業に関する知識及び技術の普及啓発を行うとともに、市民に花とみどりに包まれたレクリエーション活動の場の提供を目的とした施設です。具体的には季節に応じて年3回(5月・10月・3月)の催事や、農業科学館やフラワーセンターでの展示会(年19回)、農業や草花の体験教室(年のべ73回)、野菜の収穫体験(年のべ76回)などを行っています。							
	市の収支状況(千円) (3年度決算(見込)額)							利用料金
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	-
	195,531	-	195,531	1,566	-	193,965	195,531	
	特記事項							
	管理運営指標の状況	取組状況						
		指標	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
入園者数(戸田川緑地含む)		人	1,067,489	1,025,906	847,243	934,705		
農業科学館展示室及びフラワーセンター入館者数		人	117,189	112,040	97,142	138,050		
利用者1人あたりの運営費		円	82.8	84.1	84.1	84.4		
特記事項								

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費等を記載

評価シート（指定期間を通じた評価）

名古屋市農業文化園・戸田川緑地における指定管理者の管理運営実績

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者	チームYMO		
主な業務内容	名古屋市農業文化園・戸田川緑地の管理運営業務		
評価対象期間	平成30年4月～令和4年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和5年3月

2 管理運営状況（評価結果の推移）

評価項目	評価区分				特記事項
	30年度	元年度	2年度	3年度	
1 管理体制					【H30】 樹木医を招き、職員向けの樹木管理研修を年2回実施した。ボランティア活動団体等との協働やとだがわこどもランドなど近隣施設との連携を行った。 【R1】 施設の特徴に合わせ、様々な研修を活用していた。ボランティア活動団体等との協働や地域、企業等との連携を行った。 【R2】 とだがわこどもランドと連携。「記念スタンプ」では閑散期の施設利用者数の増加に寄与した。 【R3】 人材育成やスキルアップのための講座（26回）を実施した。とだがわサポーターズや新たに立ち上げた「野鳥写真愛好会」との協働を行った。
職員配置					
緊急時の体制					
人材育成等	○	○	○	◎	
2 協働					
市民等との協働					
3 維持管理					【H30】 陽だまり館の空調の一部と床材の更新や、フラワーセンター屋上防水工事を当初予定より早めて着手し、施設の修繕や予防保全を適切に行った。水準表の回数以上に芝生広場の除草を行い、いつもきれいな状態を保った。また、台風時には、迅速な復旧対応を行った。 【R1】 施設点検結果も踏まえ、随時、修繕が行われた。園内ベンチの木製座板を樹脂部材と交換し長寿命化を進めた。 【R2】 施設点検の指摘箇所など施設修繕を進めた。 【R3】 定期的な落ち葉清掃、樹木の計画的間伐を行った。建物、電気、消防点検にて不具合の修繕をすべて完了した。
園内清掃					
建物・設備の管理					
保守・点検・修繕	○	○	○	○	
植物管理					
管理水準の維持					
関係書類の調製・保管					
4 運営管理					【H30】 中学生のボランティアにより、イベント時にアンケート収集を行い、多くのアンケート結果から来園者の状況・要望等を把握している。要望の多かった授乳室の設置や、陽だまり館無料休憩所のリニューアル及び飲食物の提供を開始した。また、一部トイレの洋式化を行い、利用者サービス向上の取組みを行った。 【R1】 イベント時や講習会でのアンケートにより、取組みや内容についての反応やニーズ把握に努めた。また、陽だまり館のトイレを洋式化し利用者意見を反映したり、園内マップをリニューアルした。 【R2】 感染症対策の実施や一部トイレの洋式化など、利用者サービス向上の取組みを行った。 【R3】 アンケートを実施し、要望の強い講習会の回数を増やした。緑の普及啓発や健康運動を目的とした園内植物ガイド「戸田川さんぽ」を開始した。洋式便座を暖房便座化し利用者サービスの向上に努めた。
利用者アンケートの実施					
利用者ニーズの把握と反映					
利用者サービス向上策	◎	○	◎	◎	
接客・接客向上の取組み					
苦情・要望に対する適切な処理					
個人情報の適切な管理					
5 この施設特有の管理					【H30】 収穫体験等、「農」を体験できる様々なイベントを実施した。来園者やボランティアの方とともに花壇の植栽や、企業・団体とともに協働イベント等を開催し、さまざまな人々と連携した。農業科学館前無料休憩所の壁紙張り替えや陽だまり館南側の花壇のリニューアルなど魅力アップの取組みを行った。 【R1】 米作り体験や畑での収穫体験等、「農」を体験・学習できる様々な催しを実施した。フラワーセンターの展示に工夫を加え、集客効果も見られた。園内マップのリニューアルや写真映える草花植栽を実施し、新たな見どころを創出している。 【R2】 既存施設を利用し、感染症対策を講じながら、収穫体験等を実施した。あいち・なごや生物多様性ベストプラクティスに選定された。 【R3】 ニーズの多い講座を増やした。SNSを活用した広報を行い、収穫体験の参加者増につなげた。入園者数は増加している。
「農」に関する取組み					
めざす公園像への取組み					
西の森づくり地区の運営					
6 魅力増進・利用促進					【R1】 米作り体験や畑での収穫体験等、「農」を体験・学習できる様々な催しを実施した。フラワーセンターの展示に工夫を加え、集客効果も見られた。園内マップのリニューアルや写真映える草花植栽を実施し、新たな見どころを創出している。 【R2】 既存施設を利用し、感染症対策を講じながら、収穫体験等を実施した。あいち・なごや生物多様性ベストプラクティスに選定された。 【R3】 ニーズの多い講座を増やした。SNSを活用した広報を行い、収穫体験の参加者増につなげた。入園者数は増加している。
魅力の増進策	◎	◎	○	◎	
イベント等の実施					
講習会等の実施					
利用者への広報・情報提供の実施					
利用者数の増加					
7 収納金の処理業務					【H30】 陽だまり館を活用した飲食事業を市と調整のうえ公募し、H31年3月から新規展開した。季節ごとの3大イベントの実施は集客効果が見られた。収支については、事業計画時より収入が大幅に減少し、マイナスとなった。また、還元は公募提案時より少額となった。 【R1】 恒例の季節イベントに加え、周年記念事業として年間を通じ各種のイベントを実施した。収支について、前年度から改善がみられ、収益を出した。 【R3】 事業計画より支出が増加したが、それを上回る収入があり、収益を出した。
現金等の取扱い	○	○	—	○	
関係書類の調製・保管					
8 自主事業					【H30】 電力の契約先を変更することで、電力料金の軽減に取り組んだ。 【R3】 電気事業者の見直しやLED化の推進などによる電力使用量の削減を行った。
事業計画に基づく自主事業の実施					
集客対策への効果	○	◎	○	○	
自主事業の収支及び還元					
便益施設の管理運営					
9 収支					【H30】 電力の契約先を変更することで、電力料金の軽減に取り組んだ。 【R3】 電気事業者の見直しやLED化の推進などによる電力使用量の削減を行った。
経費節減策	○	○	○	○	
年間収支					
10 その他					【H30】 電力の契約先を変更することで、電力料金の軽減に取り組んだ。 【R3】 電気事業者の見直しやLED化の推進などによる電力使用量の削減を行った。
法令・協定の遵守	○	○	○	○	
事業計画との比較分析					

年度ごとの総合評価（所管局のコメント・特記事項等）

平成30年度	<p>都市公園、農業公園としての役割・目的を理解し、多様な主体との連携・協働を行いながら、適切に管理し、様々なイベントや講座を開催している点、ボランティアの活用を良く行っている点、多くの新規の取組みや池干しのようなユニークな取組みを行っている点は評価できる。</p> <p>現在、行っている企業との連携を契機として、さらに他の企業との連携も期待する。また、生産者と消費者をつなぐ架け橋として地産地消を推進する役割をいっそう期待する。</p> <p>しかし、レストラン事業の遅れもあり、自己評価はもう少し厳しくみて、今後の発展につなげてほしい。また、自主事業の収支の改善を図りながら、入園者数の目標達成や収入増加を進めてもらいたい。さらに、屋外でのスポーツ、レクリエーションのしかけを工夫し実践したり、イベントや講座は内容が固定化しないよう、市民のニーズに則した入替やリフレッシュを行ったりしてほしい。</p>
--------	--

令和元年度	<p>森や生物、農などをテーマとした数多くのイベントや講習会を、多様な主体との協働により企画・実施し、緑地としての魅力向上や利用促進に向けた取り組みを行っていることは評価できる。また、「あいちの伝統野菜イメージアップマーク」の使用や農地バンク制度のPRを行うなどの農の普及啓発に関する取り組みや、来園者の満足度向上に意欲的に取り組み、費用対効果の意識を高くもって管理していることも評価できる。</p> <p>しかし、利用者数が平成24年度から減少傾向にあるように見える。</p> <p>とだがわこどもランド修繕工事、新型コロナウイルスの感染拡大による閉園が影響して入園者数が減少したことはやむを得ず、新型コロナウイルス感染症の影響のため対応は難しいと思われるが、今後とも魅力ある施設づくりや自然の多い本施設への集客を新しい方法で進め、入園者数の増加に努めてほしい。また、報告書には職員の人材育成として行ったことについて記載してほしい。さらに、イベントや講習としてではなく、日常的に運動とスポーツが楽しめるような工夫を仕掛けてほしい。</p>
令和2年度	<p>評価できる取り組みとして、農業科学館やフラワーセンターホールで企画展や展示会を行って魅力向上に努めたこと、農業科学館での企画展示には参加型企画を加え、楽しく学習できるように工夫を凝らしたこと、地元農家による「野菜トラック市」の開催、園内ウォーキングマップの新規作成、外部団体とのネットワーク構築の推進、「食農」をテーマとして小学校に対してリモート授業を行って農に対する普及啓発を務めたこと、施設内トイレの手洗いの自動水栓化など様々な感染症対策を行い、利用者の安全確保とサービスの維持に努めたこと、農業科学館やフラワーセンターのトイレの洋式化への更新、キャッシュレスサービスの導入が挙げられる。また、快適な園内環境を維持するために、管理水準表以上の管理実績を上げ、良く管理されていることも評価できる。休園や大イベントの中止にもかかわらず90%の来館（園）者を確保し、自主事業で黒字を出して収益事業還元金を計上したこと、また、あいち・なごや生物多様性ベストプラクティスに選定されたことも評価できる。</p> <p>全般において、現状に満足することなく、常に改善の意識を持ち、利用者の声に耳を傾けながら、より一層の利用者サービスの向上に努めていただきたい。</p>
令和3年度	<p>評価できる取り組みとして、農を学ぶ講座を通じて、陽だまり館へ出荷する新規参加者が現れるなど農業公園の役割を理解し、農業の担い手づくりに貢献したこと、カワバタモロコの保全活動、ニホンミツバチの飼育、戸田川さんほの開始など新たな取り組みに着手したこと、除草管理において水準表以上の回数と様々な工夫を行いながら良好な状態の維持に努めたことが挙げられる。アンケートの結果を反映し要望の高い講座を増やすなど、利用者のニーズを把握して集客につなげたこと、コロナ禍の中で身近な憩いの施設として見直されている印象があり、そのような施設づくりを進めてきたことも評価できる。また、多様な主体との連携により多種多様な講習会や展示会を実施したこと、特にとだがわこどもランドとの連携は公園の運営という面から評価できる。レストハウスの黒字を含め、収益事業の売り上げがコロナ前と比較して112%となったことも評価できる。</p> <p>今後、参加者の少ない講習会については、新たな企画への入れ替えを積極的に行うなど、さらなる緑の啓発と公園の利用促進を図っていただきたい。また、公園の利用促進に向けてSNS等の活用とフォローの増加に一層取り組んでいただきたい。洋式トイレの温便座導入をこれからも一層進めていただきたい。駐車場に防犯カメラを設置したことは評価できるので、安全な公園になるよう一層取り組んでいただきたい。収入を増やす等人件費の上昇に対処していただきたい。</p>

### 3 利用状況等

#### 具体的な取り組みや成果等

生き物観察や昆虫観察講座などニーズの高い講習会の回数増や、コロナ禍でニーズの増加した園芸についての新規講習会の追加により講習会参加者増に取り組んだ。コロナ禍においても感染症対策を実施し、入園者増に取り組んだ。

入園者数 平成30年度：1,067,489人 令和1年度：1,025,906人 令和2年度：847,243人  
令和3年度：934,705人

### 4 収支状況等

#### 具体的な取り組みや成果等

指定期間を通じ、指定管理料は適切な執行がなされた。  
収益還元策として、利用者がより安全で利用しやすい公園になるよう陽だまり館のトイレの洋式化や防犯カメラの設置などを実施した。

### 5 利用者の意見や満足度等

#### 利用者の意見や満足度等の内容・推移

年2回（令和2年度は1回）のイベント時に実施しているアンケートでは常に9割以上の方から「満足」との回答を得ており、利用者満足度は高い。また、「次回もまた来たい」と回答した割合は平均86.5%であった。

### 6 総合評価 [ ]

#### 所管局のコメント・特記事項等

評価できる点として、農業公園として農の発信、体験できる場づくりに貢献できていること、植物管理と施設管理において、様々な工夫を行いながら良好な状態の維持に努めたこと、公園の役割を理解し、多様な主体と連携を行って、様々なイベントや講習会を開催していること、3農業公園の連携の取り組みができてきていることが挙げられる。西の森づくりの取り組みも期間を通しての管理ができてきている。コロナ禍への対応が適切にできており、コロナ収束に向かって来館者が回復していること、様々な感染症対策を行い、利用者の安全確保とサービスの維持に努めたことも評価できる。